



前から3時間前までの地点雨量の特徴重要度を乱数を変え5回ずつ算出した。

### 3. 結果と考察

算出した特徴重要度の結果を図-2, 図-3, 図-4に示す。水位がピークに達する1時間前から3時間前の地点雨量に関して大野, 野上, 下笠, 寺床が高い特徴重要度を示していた。

水防団待機水位に達しているイベントのほとんどが図-5のように広い範囲に長時間雨が降ったものだったことを確認した。

三隈は今回対象としている片ノ瀬から最も近い観測所であり, 水位がピークに達する1時間前から2時間前において特徴重要度が高いことを確認した。

万成, 栃野は水位がピークに達する3時間前に特徴重要度が際立って高く出ていることが分かった。

また, 鶴河内は雨量が50mm近いイベントがみられたが, 水位がピークに達する1時間前から3時間前において特徴重要度が高く出なかった。雨量の分布をみると図-6のような非常に激しい雨が降っているケースが多くみられた。この時の片ノ瀬の水位は既に10mを超えており, 氾濫危険水位8.5mを超えていることが分かった。ほかの地点雨量も多いことから水防団待機水位を超えるかどうかの判断材料にはならなかったことが考えられる。

鯛生においても30mm以上の雨が降るイベントあったが, 片ノ瀬の水位上昇において特徴重要度があまり高くなかった。片ノ瀬の水位を見てみると既に氾濫危険水位を超えていたことから, 鶴河内と同様な理由が考えられる。

### 4. おわりに

1. 片ノ瀬の水位がピークに達したとき, 水防団待機水位を超えているイベントは少なくとも3時間以内に10mm近い地点雨量がどこかしらで見られたが, その場所に共通点は見られなかった。
2. その中でもピーク水位がさらに危険な水位まで達するイベントは, 片ノ瀬より上流で30mm以上の地点降雨がみられた。
3. 今回の結果にはダムより上流側の観測所も含まれているため, そこで観測された雨量が直接関係していないことが考えられる。

また, 筑後川の流下には最長で48時間かかることから計算領域の見直しが必要だと考える。

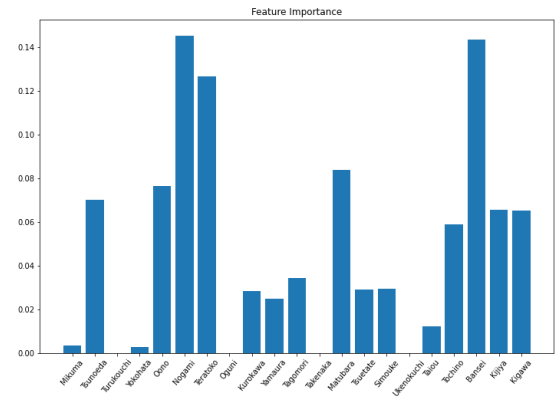


図-4 特徴重要度(ピーク3時間前)

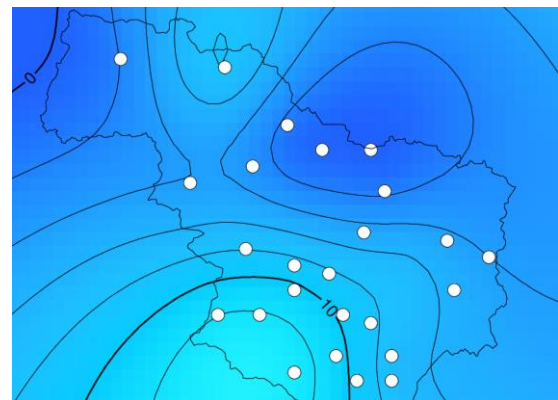


図-5 2004/9/7(ピーク2時間前)

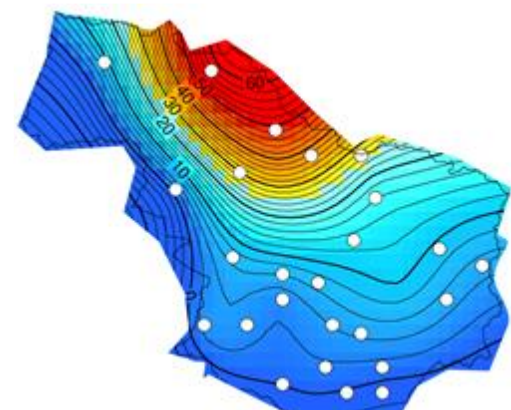


図-6 2017/7/5(ピーク2時間前)